

瀬戸地区・北新谷

江戸時代後期に磁器生産が始まった地区で、加藤民吉ゆかりの場所が多くあります。また、尾張瀬戸駅から深川神社にかけては、窯元や陶磁器問屋の屋敷が軒を連ねていました。深川神社の参道やその周辺は瀬戸では最も賑やかなまちでした。



窯神神社本殿

登窯を模した社殿で、九州で磁器製法を習い瀬戸に伝えて「磁祖」と崇められる加藤民吉が祀られています。加藤民吉が染付焼の完成を神に感謝し、さらなる繁栄を祈願するため、日頃信仰していた秋葉山大権現、天満威徳天神、金毘羅大権現を窯神として祀り遙拝したいと、建立を藩庁へ願い出、文政7年（1824）に許可されました。同年に民吉が亡くなり、文政9年（1826）に二代民吉によって初代民吉を丸窯神（現在は窯神）として祀るようになりました。



せともの祭

窯神神社では、地元西谷地区の人によって祭礼が行われていましたが、大正5年（1916）に窯神祭を瀬戸町全体の行事とすることが定められ、毎年9月16日に開催されることとなりました。昭和7年（1932）に、当時の新愛知新聞（現在の中日新聞）瀬戸支局長が「せともの祭」を提案し、業界の賛同を得て、窯神祭と同日に廉売市を行うようになりました。平成10年（1998）の第67回せともの祭から開催日を9月の第3土・日曜日から第2土・日曜日に変更しています。

加藤民吉像



この民吉像は陶磁器関係の組合が中心となり、市民の寄付を集めて、加藤丈一郎らの依頼により、岐阜県生まれ北海道旭川市育ちの彫刻家加藤顕清が昭和 12 年（1937）に制作しました。銅像竣工式はせともの祭当日に盛大に行われました。顕清の名はこの地方では一躍脚光を浴びる存在となり、戦後西古瀬戸町に「オリエンタルデコラティブ陶磁彫刻研究所」が発足すると再び来瀬し、イサム・ノグチ、北川民次、沼田一雅らと芸術運動を展開しました。

加藤唐左衛門高景翁頌徳碑



加藤唐左衛門は瀬戸村庄屋で、民吉の才能を見出し、瀬戸窯業の発展に貢献した人物です。「一子相伝制」や「ロクロ一挺制」の中、次男以下に染付焼の職を開放し、磁器製法の進歩を目指し、民吉の九州修業を支援しました。また、染付焼開発のため、原材料の確保や発見に力を注ぎ、私財を投じて業界全体の発展に奔走しました。碑はこの功績を後世に残すために昭和 61 年（1986）に建立されました。

津金胤臣父子頌徳碑



次男であった民吉は、窯屋を継ぐことができず、享和元年（1801）父とともに、熱田新田の開発に従事していました。その慣れない姿が熱田奉行の津金文左衛門胤臣の目にとまり、民吉父子に自身が知っている中国南京の磁器製法を教え試みさせました。この頃に、瀬戸でも磁器生産が本格的に行われるようになり、その後民吉が九州へ磁器製法の修業に出る際も、子の胤貞が民吉を送り出すために尽力しています。瀬戸窯業の隆盛を生んだ功績を称え、昭和 13 年（1938）に名古屋陶磁器輸出組合等によって碑が建立されました。

磁祖加藤民吉翁碑



大正 11 年（1922）9 月に建立されており、民吉の伝記が記されています。1,117 文字の長文で市内の碑中で最長のものです。



磁祖加藤民吉出生之地碑



民吉の生家があった場所に、昭和 12 年（1937）9 月に尾張徳川家 19 代当主徳川義親により書された石碑が建立されました。また、石碑の隣には磁器の釉薬に使われる柞^{いす}の木が、民吉の修業を偲び植えられています。柞の木は民吉が佐々から持ち帰ったものの一つともいわれています。



尾張瀬戸駅



▲旧尾張瀬戸駅（写真：フォトスタジオ伊里）

尾張瀬戸駅を起点として瀬戸自動鉄道（現：名鉄瀬戸線）が開通したのは、明治 38 年（1905）のことでした。当初は、木造の駅舎でしたが、大正 14 年（1925）に鉄筋コンクリートの駅舎に建て替えられました。2 代目の駅舎は洋風 2 階建てで、2 階に食堂が設けられ、社交の場でもありました。平成 13 年（2001）に取り壊されるまで、瀬戸の 20 世紀を象徴する建物として多くの人々に記憶されました。現在は 3 代目の駅舎となり、2 代目駅舎から東に 100 m ほど移動しています。2 代目駅舎は、趣をそのままに、瀬戸蔵ミュージアムで再現されています。



長江録彌作の彫刻



長江録彌氏は大正 15 年（1926）に瀬戸市で生まれ、平成 3 年（1991）に日本芸術院賞を受賞し、平成 7 年（1995）に瀬戸市出身者として唯一の日本芸術院会員となりました。平成 10 年（1998）には名誉市民となり、平成 17 年（2005）に他界されました。平成 19 年（2007）から瀬戸市は長江録彌氏の彫刻作品のブロンズ化を進め、平成 21 年（2009）10 月 1 日の市制記念日にパブリックアートとして 5 点をパルティセトリモージュ広場に設置しました。



丸一国府商店



廃藩置県後の旧犬山藩の家臣が、明治 5 年（1872）に名古屋市の大曾根で創業した商店。陶器販売拡大のため、明治 20 年（1887）に瀬戸市朝日町に仕入部を開設し、瀬戸自動鉄道が開業したのを契機に、明治 44 年（1911）に現在の望楼を載せた建物が完成しました。望楼は、犬山城の天守閣を模したとも伝えられ、接待の場として使用されました。当時、木造 2 階建ての建築が建ち並ぶ瀬戸川沿いの中でもひと際目立つ存在で、現在も昔の姿を残したまま陶磁器販売を行っており、往時の様子を伝える景観の核となっています。



陶器



磁器



創造



街



交流



自然



祭り

無風庵



開館時間：10:00 ～ 15:00
休 館 日：水曜日
入 館 料：無料

近代美術工芸家藤井達吉が工芸運動を進め、昭和 27 年（1952）小原村（現：豊田市小原地区）に、私財を投じて若手作家育成のために建築した茅葺入母屋造の建物です。工芸村が解散したことで、共同工房であった「無風庵」（名称は達吉の雅号「無風」に由来）は瀬戸市へ寄贈され現在の地に移築されました。そして国の補助を受け平成 13 年（2001）に復元・改修され、現在のギャラリー兼休憩所となりました。

忠魂碑・殉国慰霊塔



忠魂碑は日露戦争に従軍した兵士が戦友との約束に基づき建立しました。もともとは瀬戸川の記念橋近くにありましたが、昭和 17 年（1942）5 月に現在の場所に移設されました。殉国慰霊塔は昭和 38 年（1963）に太平洋戦争で亡くなった兵士のために建立されました。



旧山繁商店（国登録文化財 / 建造物）

万延元年（1860）生まれの初代加藤繁太郎は、明治 12 年（1879）に主屋（現在滅失）^{しゅおく}（現在滅失）を建てて移り住み、明治 19・20 年（1886・1887）頃から陶磁器卸問屋「山繁陶磁器商店」を起業しました。大正 8 年（1919）には「山繁合名会社」となり、二代・三代と加藤繁太郎家は引き継がれ、昭和 14 年（1939）には中国上海市に支店を開設するなど海外貿易も活発化します。終戦の翌年には陶磁器卸売業を再開し、南洋向け貿易陶磁器の加工完成業を行うなど、早期に戦前の隆盛を取り戻しています。「せともの問屋」として、広大な敷地に明治・大正・昭和の各時代の建物が、まとまった形で残されているのは大変貴重です。



旧川本榎吉邸



江戸時代の終わりに明治期にかけて染付磁器の有力な窯屋の一つであった初代・2代川本榎吉の本宅で、主屋は木造2階建ての寄棟造り葺瓦葺きの建物です。1階は、12帖2室、10帖1室、8帖2室ほかからなる6間取りの大きな建物となっており、玄関の梁などに太い木材が用いられています。主屋の南側には板塀で囲まれた庭があり、かつては築山や池が築かれ多くの庭木が植えられていたようです。現在は、(株)尾張東部放送（ラジオサンキュー）の事務所として使用され、お雛めぐりやせともの祭の際など折に触れ公開されています。



古民家 久米邸



開館時間：10:00～18:00
 （カフェは11:00～17:00まで（夏季は18:00））
 休館日：水曜日
 （カフェは火・水曜日）
 駐車場：無
 入館料：無料

近代瀬戸窯業を代表する川本榎吉家旧別邸で、建築年代は明治41年（1908）ごろ、2代川本榎吉の時代にあたります。2代榎吉は磁器改良に取り組み、川本家を瀬戸有数の窯元に成長させるとともに、瀬戸町長、瀬戸陶磁工商同業組合長などを務めました。眼科医久米逸郎氏が、戦後にこの別邸を購入して眼科医院を開業しましたが、昭和55年（1980）に閉院、古民家久米邸と称して現在に至ります。敷地は南に下る急傾斜地にあって、東側に門を構え、主屋は木造2階建、診療所時代に改築されています。現在はギャラリー、カフェなどとして公開されています。



深川神社本殿（市指定文化財 / 建造物）

創建は宝亀2年（771）とされ、祭神は天照大神と素盞鳴尊との間に生まれた五男三女の神々を祀ります。宝物は国指定重要文化財（工芸品）である陶製狛犬と市指定文化財（工芸品）の永享年銘梵鐘などです。例祭は10月の第3日曜日です。石段を登り鳥居をくぐると見えてくる、拝殿前右手の小山が深川神社古墳です。横穴式石室の円墳で、6世紀頃のものだと推定されています。社伝によれば陶祖藤四郎がこの神社に参籠した折、御夢靈験により社の辰巳にあたる祖母懐の土を得たといわれています。本殿は諏訪の名匠立川和四郎富昌により、文政6年（1823）に造営されました。瀬戸のまちは深川神社を中心とした門前が賑わいの中心となっています。



陶器



磁器



創造



街



交流



自然



祭り



陶製狛犬（国指定文化財 / 工芸品）

深川神社の神宝である陶製狛犬は陶祖藤四郎が製作して奉納したと伝えられています。現在残っているのは口を閉じた呬型の一体のみです。陶製としては大型で、高さ 51 cm、幅 24 × 39 cm あり、へらの痕は鋭く、たて髪は櫛目を使って描かれています。全体に淡黄緑色の灰釉が施されており、前脚が江戸時代の神社火災で損失し、木で補修されています。大正 2 年（1913）に国宝に指定されますが、昭和 25 年（1950）の文化財保護法制定で重要文化財（工芸品）に指定されました。なお、近年の窯跡調査で本例に類似した出土例がほとんどみられないことから、室町時代初頭の頃まで制作年代を下げて考える説もあります。



陶彦社本殿・拝殿

文政7年（1824）に陶祖藤四郎を祀って建立された陶彦社は、大正15年（1926）に本殿・渡殿（幣殿）・拝殿等が遷座されました。本殿は、流造形式で、1間×2間の身舎は円柱で構成され、平入の正面入口には向拝を配しています。向拝柱は角柱で、すっきりとした海老虹梁とともに銅板葺の屋根を支えています。大正の遷座の折には、伝統意匠を西洋図案により抽象化するなど当時の近代和風建築の高度な技術が活かされています。設計者の伊藤平二は、名古屋の堂営大工である9代伊藤平左衛門の次男として生まれ、宮内省に勤め、正倉院建物の保存修理等を手掛けたと伝えられます。



💡 ノベルティ・こども創造館 / ノベルティミュージアム

建物は、平成初めまでノベルティを製造していた民間の工場を改修したものです。ノベルティの技術や歴史を感じとることのできる創作体験、粘土をはじめとした様々な素材を用いた創造プログラム、ノベルティ作品の展示（ノベルティミュージアム）などを行っています。土を使った遊びやノベルティの製造工程が「見て」「触れて」「体験できる」プログラムがあり、ノベルティの製造技術を伝えてくれる職人スタッフと交流することができます。

開館時間：10:00 ～ 17:00

駐 車 場：20 台

休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始

入 館 料：無料



法雲寺 陶製梵鐘（市指定文化財 / 工芸品）

日中戦争から太平洋戦争にかけて、金属の不足を補うため金属器の「代用品」を陶磁器で生産することが奨励され、国内各所でその生産が行われました。太平洋戦争突入後の昭和 17 年（1942）には寺の仏具・梵鐘類なども強制的に供出の対象とされ、法雲寺の青銅製梵鐘（昭和 9 年（1934）奉納）も同年 10 月に「出征」することとなり、代わりに作成されたのが、この陶製梵鐘です。この陶製梵鐘は、「代用品」の大型の例で、鐘を突くという実用性は度外視されており、国内でも稀な「代用品」です。

陶土・珪砂採掘場



(2004 年撮影)

北新谷北側の丘陵には陶土・珪砂採掘場が広がっています。ここには風化した花崗岩が堆積した瀬戸陶土層が地表近くにあり、窯業原料として良質な「木節」や「蛙目」といった粘土やガラス原料である珪砂が豊富に産出しています。かつては縦穴や横穴を掘って採集する坑道掘りによって採掘されていましたが、現在は大型土木重機により階段状に掘り下げていく露天階段掘りによって採掘が行われています。窯神社の北側から採掘場の景観をみることができますが、現在は写真と様子が変わっています。

宮前地下街



深川神社の前の参道付近には、明治 28 年 (1895) に寄席の陶元座が落成し、深川神社の参道と陶元座の間は、茶屋町と呼ばれ、置屋や遊戯屋が立ち並んだ盛り場でした。深川神社参道は、瀬戸川を挟んだ反対側に、戦時中に疎開道路として作られた幅 40 m 近い宮川通り (通称「バカ道路」) が続いています。それらの道路工事の排土を埋め立てた宮前公園の西側には、公園から見ると一段低く、まるで地下街のような店舗が設置されました。道路建設などのために店舗の立ち退きをした住民に市が提供したもので、戦後の宮前の賑わいの中心となっていました。

西谷墓地



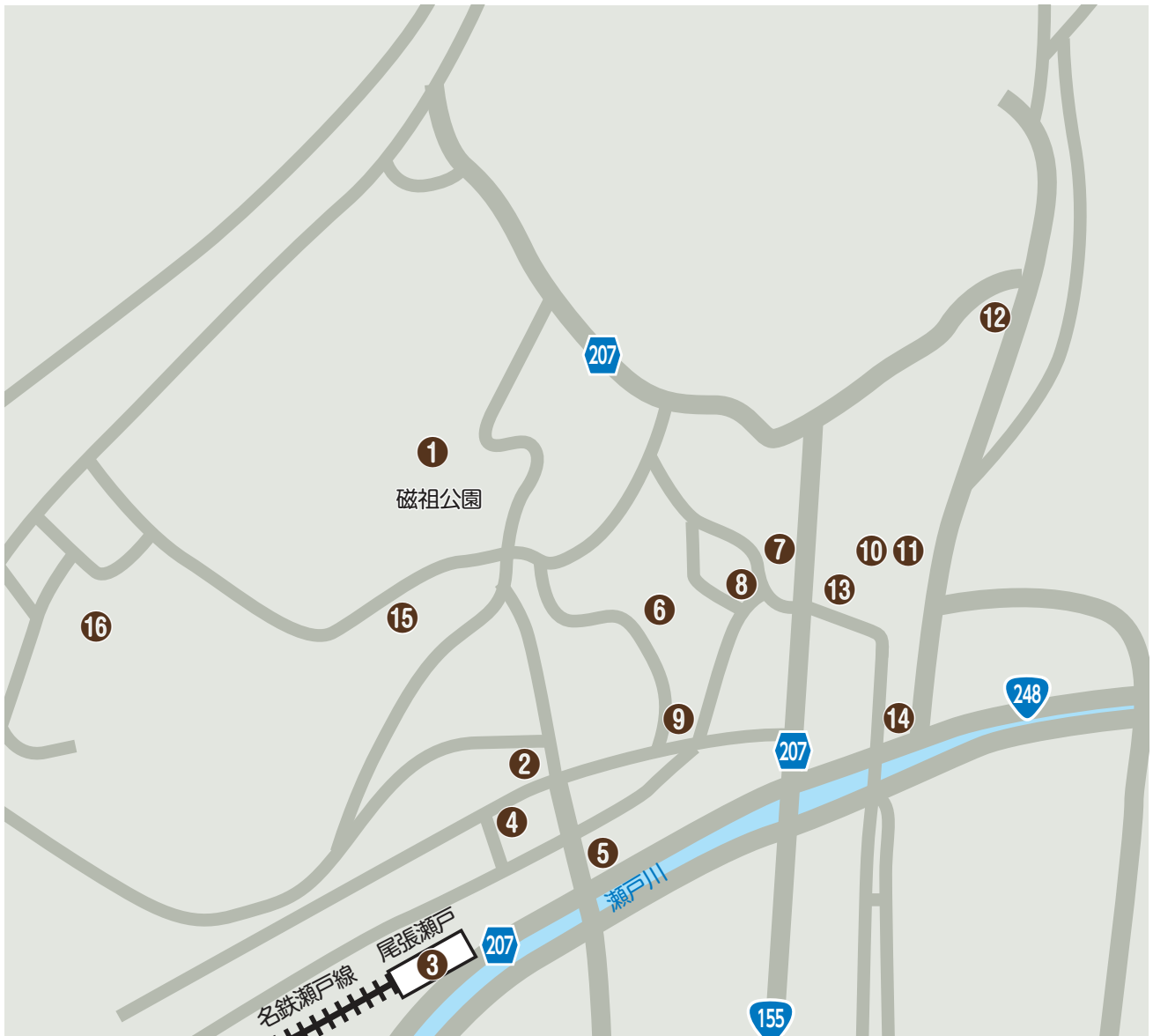
磁祖と呼ばれる加藤民吉は、西谷町の山裾に居宅があり、窯神神社との間に窯場があったと伝えられています。文政初年の瀬戸古窯図には窯場と窯神神社との間に「加藤民吉窯」と記された登窯が描かれています。初代民吉は、居宅に近い西谷町の北側斜面に広がる西谷墓地の一角に葬られ、瀬戸の磁器生産の礎を築いた一人でありながら、その墓石は多くの墓石の中に溶け込むようにして佇んでいます。

北川民次アトリエ



画家北川民次が15年間のメキシコ滞在から帰国し、妻の実家である瀬戸で腰を据えて創作活動を始めた昭和18年（1943）から昭和45年（1970）ごろまで使われていた建物です。元は大正時代の陶器工場のモロ（作業場）で、周囲に壁をめぐらし、窓が少なく、内部には柱もほとんどありません。このアトリエから瀬戸をテーマとしたさまざまな作品が生み出されていきました。

瀬戸地区・北新谷地図



- | | |
|--|---|
| ① 窯神社本殿 (P26)
加藤民吉像 (P28)
加藤唐左衛門高景翁頌徳碑 (P28)
津金胤臣父子頌徳碑 (P29)
磁祖加藤民吉翁碑 (P29) | ⑧ 旧川本栴吉邸 (P34)
⑨ 古民家 久米邸 (P34)
⑩ 深川神社本殿 (P35)、陶製狛犬 (P36)
⑪ 陶彦社本殿・拝殿 (P37)
⑫ ノベルティ・こども創造館
/ ノベルティミュージアム (P38) |
| ② 磁祖加藤民吉出生之地碑 (P30)
③ 尾張瀬戸駅 (P30)
④ 長江録彌作の彫刻 (P31)
⑤ 丸一国府商店 (P31)
⑥ 無風庵 (P32)
忠魂碑・殉国慰霊塔 (P32) | ⑬ 法雲寺 (陶製梵鐘) (P39)
⑭ 宮前地下街 (P40)
⑮ 西谷墓地 (P41)
⑯ 北川民次アトリエ (P41) |
| ⑦ 旧山繁商店 (P33) | |